

国際交流・社会貢献等の概要

●国際交流活動の推進に向けて

大学における国際交流活動の推進に向けては、国際ビジネス学科を設置して以来様々な取り組みを実践してきた。その1つに授業科目として「グローバルコミュニケーション」を新たに設け、国際社会に対応できる人材の育成を図っている。これは本学が提供する海外プログラム（国際交流プログラム、海外研修、スポーツマネジメント研修等）や個人的な観光旅行で外国に渡航した際、臆することなく英語でコミュニケーションを取れる能力を養い、そして将来的に仕事で英語を使用することに対する希望と自信を持ってもらうことを目指す講義となっている。単なる語学学習ではなく、国際的な感覚、視野の広がり身に付けてもらい、実践として海外研修等への参加意識も高めている。そのため新たに規程も整備し、一定要件のもと海外研修の参加費補助制度も設けた。この授業は伊勢崎キャンパス、高崎キャンパスの両キャンパスで開講されており、受講する学生たちも定着し、実際に海外研修に参加する学生も増えてきている。

また昨年12月には高崎キャンパスの学生食堂において、恒例となっている「国際ビジネス学科 留学生と日本人学生の交流会」を開催した。当日は、留学生に加え、日本人学生も加わり、理事長、学長、副学長、教職員も参加してにぎやかな会を催すことができた。本学に在籍する留学生は国籍も様々で、この日も中国・インドネシア・スリランカ・ベトナム・ネパール・ミャンマー等多様な国の出身者が集まった。会の中で「自分の出身地・出身国」というテーマで各々が自己紹介を行い、異文化に対する理解や知識を深めることができた。

さらにはここ数年スポーツにおいても海外からの留学生を積極的に受け入れている。人数はそれほど多くないものの、アジア圏以外にも留学生が定期的に留学している。競技ではバスケットボール、サッカーが主であり、継続的に留学生を迎えている。こうしたスポーツを通しての定期的な留学生の受け入れにより、海外関係機関との連携協定締結なども期待できる。

●大学間連携

従来から本学を含む群馬県内5大学（高崎商科大学、関東学園大学、共愛学園前橋国際大学、高崎健康福祉大学）による合同の企業研究会を開催していたが、ここでの大学間交流を基にして、より強固な連携協力関係を結ぶべく、平成27年度から5大学と株式会社スパンによる学生の就職支援を共同で行っていくための協定を締結している。これにより各大学での就職情報等を共有でき、人事交流なども盛んに行われることになり、学生たちが効率的な就職活動

を行うため、様々な形で支援できるよう対応が図られている。

平成30年12月1日には高崎商科大学を会場として、24社の企業が参加し、3・4年生を対象とした合同企業説明会を開催した。また今年度に入っても各大学との情報交換を行いながら6月1日に、関東学園大学を会場として、42社の企業が参加し、4年生を対象とした合同企業説明会を開催している。

●産学官連携

○包括連携協定等の締結

上武大学では平成26年度から平成28年度にかけて、地域社会の発展と人材育成への寄与を目的として、教育、文化、福祉、健康、地域産業、国際交流などの分野において連携、協力するための協定を群馬県内各自治体と結んだ。まず平成27年2月に伊勢崎市との協定をとりまとめ、続いて玉村町、富岡市、渋川市、藤岡市の大学近隣5市町村との包括協定を順次結んでいる。協定締結以前から協力関係にあった上武大学と近隣市町村であるが、これにより様々な分野で一層の協力・連携関係が築かれることになっている。

具体的には各市町村やその教育委員会が主宰して開催する市民・町民向けのスポーツイベントの運営補助や競技補助業務を執り行ったり、各市町村が運営する施設での文化事業の開催などがある。

なお高崎市とは部分的協定ではあるが、災害時における施設利用に関する協定を取り交わし、高崎キャンパスのある新町地区の防災に関して、高崎市と連携しながらその対応策の検討を行うこととなっている。

○文部科学省主宰「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」への参画

標記補助事業には群馬県も積極的にに関わり、県が主導する形で群馬県への就業率向上を目的として、共愛学園前橋大学が核となり、本学と高崎商科大学、明治学院大学が協力する参加校として連携し、平成27年度補助事業の採択を受けた。ここには群馬県をはじめとして、高崎市、前橋市、伊勢崎市、富岡市の自治体も加わり取り組みを推進している。大学卒業後の群馬県内への就業率が、5年後に10%上昇することを目途とし、大学、自治体そして県内の企業も積極的に協力していく体制が整い、本学をはじめとする各大学も協力して具体的な取り組みを検討・推進している。

本学ではこの取り組みにおいて、県内の企業を学生達に紹介するためのコンテンツ製作を行うこととしており、地元メディア（上毛新聞社等）の協力を得ながら、学生達と共同で製作を進めている。今年度は試作もかねて作り

始めていた病院紹介の映像をホームページ上へアップし、上毛新聞社が作成している企業紹介映像と共に試作的に公開するところまで作業が進んでいる。

また平成31年3月に高崎商科大学にて、群馬県内への就職を促進させる目的で「地域創造フォーラム」が開催された。ここでは本学から群馬県内に就職することが内定した2人の学生に参加してもらい、その就活体験など発表してもらった。さらに本学教育研究センター長である教員も加わり、コメントーターを務めた。

○「グローバル・ハタラクラス群馬」コンソーシアムへの参画

群馬県を中心とする県内各自治体と、群馬大学を主とする県内大学が参画して、留学生の受け入れと環境充実を推進していくプロジェクトを実施している。本学もこれに加わり、澁谷学長は運営委員の1人となりプロジェクトの推進に協力している。

○群馬地域大学連携協議会への参画による地域貢献

群馬県が主体となり、県内の自治体が抱える問題・課題解決に大学が積極的に加わり、ともに地域貢献事業を実践していくための組織。本学もこの協議会に参画しており、その中で渋川市の案件として、総合型スポーツクラブの運営協力や、スポーツイベントなどの競技補助などの業務において協力している。

○ザスパクサツ群馬と連携協定を締結

平成31年3月1日本学とサッカーJ3ザスパクサツ群馬は、サッカーを通しての人的交流及び知的・物的資源の相互活用の推進と充実を図るための連携協定を締結した。これは学生がザスパのリーグ戦でのボランティアや、クラブへのインターンシップなど、積極的に参加できる体制をつくり、地域社会の発展と人材育成に寄与することを目的としており、本学サッカー部員のみならず、柔道整復師コースの学生やスポーツマネジメントを学ぶ学生にとっても活動の場が広がり、意識の向上が図れることとなった。こうした動きの中で4月より大学本部に新たな部署としてスポーツセンターを置き、ザスパクサツ群馬との共同研究などを行い、その成果を社会に還元できるような仕組みも構築している。

○高大連携の推進

群馬県内の高等学校のうち、吉井高校、高崎東高校、榛名高校、高崎高等特別支援学校の4校とは高大連携協定を締結している。内容的には高等学校

におけるカリキュラム支援や、テーマ学習の協働研究・発表、共同のボランティア活動、キャリア教育支援などであるが、このうち榛名高校においては、高校側からの要望を受けて、本学における絵手紙の活動を高校生にも体験してもらう授業を実施した。以来榛名高校の新入生オリエンテーションでは毎年絵手紙体験を行うこととなり、本学から担当の職員を派遣し、講習と実技指導を実施している。

○地域との連携

本学高崎キャンパスがある高崎市新町において、地元の商店連盟・商工会議所と協定を締結し、新町地区の活性化のために、学生達も協力しながら様々な活動を行っている。具体的には新町祭り及び新町商工祭への企画参画と運営補助、などがありその他にも学生たちはいろいろなボランティア活動により、町の運営に協力している。また富岡製糸場と同様の歴史的価値のある建造物、新町紡績所の世界遺産追加登録に向けて、「よみがえれ！新町紡績所の会」とも包括協定を締結し、大学と町を挙げて、文化的活動を推進している。なおこうした学生たちの積極的なボランティア活動を大学としても評価しており、「社会 貢献実践」という新たな授業科目を導入し、学生のボランティア活動に対して単位も付与しており、これらを取りまとめる組織として、大学にはボランティアセンターも設置している。

●社会貢献活動

○救急救命士コース開設に伴った活動

平成31年4月よりビジネス情報学部（伊勢崎キャンパス）に新たに救急救命士コースが開設された。このコースの活動拠点ともなる救急救命センターには実際の救護活動に利用される様々な機械器具や設備があり、救急車も配備されている。現時点では学生たちだけで救護活動などを展開することは難しいが、救急救命士の資格を持った教員が常日頃指導を行うことで、補助活動等は実践できるようになっている。今後さらに技術を磨いていき、このセンターを災害時の救護活動の拠点となるよう規程等も整備し、準備を進めている。

○被災地支援活動

昨年7月の西日本豪雨により被災した地域の人たちを支援すべく、同地方出身の学生たちが学内で募金活動と呼び掛けた。主として本学硬式野球部の部員ら5名であるが、大学側もこれに協力した。そして集まった義援金を日本赤十

字社群馬県支部に届けた。

同じく、北海道胆振東部地震により被災した人たちに向けて、同地方の出身でもある本学駅伝部の学生らが中心になり、募金活動を行い、集まった義援金を日本赤十字社群馬県支部に届けている。

○公開講座等

昨年10月7日高崎キャンパス学生ホールで、上武大学手がき文化研究所第5回公開講座「熊谷守一」を開催した。同研究所所長であり、本学客員教授、日本絵手紙協会名誉会長の小池邦夫氏が講師を担い、およそ400名の参加者に講演と実技指導を行った。毎年恒例となっているこの公開講座には、本学の学生たちも多数参加しており、訪れた参加者らと親しくコミュニケーションを取る良い機会にもなっている。参加された一般の方々からも、「大学生たちといろいろな話ができてよかった」「若い人の感性に驚かされ、いい刺激になった」といった感想が寄せられており、単に講座で学ぶという機会としてではなく、地域住民と学生たちの交流の場として年々活性化し、定着している。

また上武大学絵手紙ギャラリー&ミュージアムにおいては「町田洋二風景画展 -世界はひとつ- Part2」も開き、大学が行っている文化活動を地域の方々に公開した。

○スポーツアカデミーの開催

大学のスポーツ施設を利用して現役の大学生とスポーツを通じてふれあい将来のアスリートの育成を目的とする、上武大学公開講座2019「スポーツ・アカデミー in JOBU」を平成31年2月17日伊勢崎キャンパスで開講した。近隣の小学生72名に参加いただき、サッカー・陸上・バスケットボールに分かれ、各部の監督・コーチの指導のもと、本学学生のお手本を見ながら楽しく学んでもらうことができた。各種目のトレーニングは競技の基礎となる正確な身体の動きや技術等わかりやすく、受講生も各課題に真剣に取り組み、最後のミニゲームまで充実したトレーニングとなった。また保護者の方へは「子どもをその気にさせるには～保護者が出来ること～」「競技力の向上について」の講義を行った。

○玉村町陸上教室への参画

令和元年6月16日玉村町総合運動公園陸上競技場にて、本学陸上部員4名指導のもと玉村町陸上教室が開催された。参加者は同町の小学生を中心に44名、9:00～11:00まで「走る楽しさと体の使い方」を目的とし、準備体操

から手つなぎ鬼ごっこ、ラダーとミニハードル、50m 走、リレーと汗を流した。実際に指導した本学生も「体の使い方など一緒に動いて教える大変さと、上手く出来た時の子供達の笑顔で普段の練習とまた違った刺激を受けることができた」ということで、学生にとってもいい経験になり、地域貢献にもなったイベントとなった。

○スポーツ競技への協力

本学硬式野球部の谷口英規監督が、JOC日本オリンピック委員会より、平成30年度に引き続き令和元年度も日本オリンピック委員会強化スタッフとして委嘱状を受けた。また、侍ジャパン大学代表チームのヘッドコーチにも任命され、そして7月に行われた「第43回日米大学野球選手権大会」でスタッフとして選手たちの指導に当たった。なおうち1試合は監督代行として試合の指揮も執っている。

○スポーツトレーナー活動

本学の柔道整復師コースの学生達で構成されているトレーナーサークルは、大学との協定を締結している自治体が企画・運営するスポーツ事業に積極的に参画しており、学びを実践できる場としても機能させている。具体的には以下に挙げる競技会等において、独自のブースを設置し、参加者たちの競技後の身体的ケアを行っている。

- ① 伊勢崎市による伊勢崎シティマラソン大会（平成30年12月）
- ② 渋川市による榛名梅マラソン（平成31年3月）
- ③ 桐生市による渡良瀬遊水地トライアスロン（令和元年5月＊協定外）
- ④ 富岡市による妙義山ビューライド（令和元年5月）

○授業等を通じたボランティア活動

- ・はじめてのボランティア講座（群馬県青少年育成事業団）への参加

平成30年5月26日

学生4名が参加。

ボランティア講座の受講を通じて、コミュニケーションの取り方、様々な人との接し方、防犯について学んだ。

- ・第44回高崎まつり ボランティア（高崎祭実行委員会）

平成30年8月4日、5日

学生6名が参加。

高崎まつりでは、高崎市の青年会議所や若手経営者の団体が祭の中心メン

バーとなり、祭りの様々な活動を分担して計画・実行している。ボランティアスタッフも参加し、2日間のまつりを支援している。このボランティアとして2日間で延べ8名の学生が参加し、駐車場整理や会場整備、大花火大会の会場担当として活動した。

- ・ 第20回ぐんま環境フェスティバル、適正処理・温暖化防止県民の集い

平成30年10月13日

学生10名、吹奏楽部7名（OBを含む）、教員1名が参加。

会場の設営と来場者の案内・資料配布、配布資料の準備、企業・行政・大学等の事業展示支援、学会基調講演等のイベント支援を担当した。

また、式典と適正処理・温暖化防止県民の集いにおいて、吹奏楽部の演奏が行われた。

- ・ しんまちフェスタ 2018

平成30年10月14日

学生30名が参加。

高崎市新町の若手経営者による地域活性化事業「しんまちフェスタ 2018」において、フリーマーケット、ステージ、駐車場・警備、青空グルメ、ボクシング体験、本部などの担当者として、祭りの支援活動を行った。

- ・ 白鳥見守り隊への参加

平成30年12月15日、平成31年1月12日

学生5名（12月15日）、7名（1月12日）が参加。

高崎キャンパスのほど近くを流れる烏川河川敷において、「白鳥見守り隊」として、飛来した白鳥の保護を目的にゴミ拾い等の環境整備を行った。

- ・ 新町ボランティア・NPO フェスティバル 2019 での活動

平成31年2月16日、17日

学生3名、教員1名が参加。

新町ボランティア・NPO フェスティバル 2019 において、開催前日における会場準備と当日の役割分担の確認を行った。当日は、パネル展示・説明、新町カフェの運営、座談会トークショーの進行支援を行った。

- ・ 岩手県大船渡市赤崎地区の復興支援隊（神戸大学主催）大船渡復興支援ワークキャンプ

平成31年3月9日、10日、11日、12日

学生 2 名が参加。

神戸大学の学生と上武大学ボランティアサークルのメンバーが、大船渡市赤崎地区の漁村センターに宿泊し、合宿形式で活動を行った。3 月 11 日に行われる震災追悼式の準備から実施、復興に向けた取り組みへの支援を行った。

- ・ 高崎市立新町中学校における学習支援活動

平成 30 年 6 月 15 日～2 月 25 日

学生 4 名が参加。

高崎市立新町中学校に通う中学生に対し、数学と英語の学習支援を行った。

具体的には、小学校の復習や中学校で学習済みの内容を中心に、生徒自身のペースで基礎的な問題に取り組むための支援と補助を行った。

- ・ 高崎市新町七夕まつり

平成 31 年 5 月 22 日、6 月 6 日、7 月 4 日、6 日、7 日

学生 40 名が参加。

5 月 22 日、6 月 6 日に開催された七夕まつり実行委員会に教員と学生 5 名が参加し、祭の企画・運営について検討し、祭の計画案等を作成した。

7 月 4 日には祭の準備作業を行った。6 日、7 日の祭り当日は、テント・看板の設営、かき氷・飲料水・抽選コーナー・ごみ袋販売、模擬店出店、縁日コーナー、魚つかみ、新町バザールの担当として活動し、終了後は撤去作業も行った。